

## 取組事例

---

- 参考資料5-1 「北海道価値創造パートナーシップ」会議の開催について
- 参考資料5-2 「再生可能エネルギーを活用した地域づくりに関する調査」の概要
- 参考資料5-3 「北海道における「食」の総合拠点づくり検討調査」の概要
- 参考資料5-4 「北海道ドライブ観光促進方策検討調査」の概要
- 参考資料5-5 「北海道型地域構造の保持・形成に向けたモデル的な圏域における検討調査」の概要

○ 平成28年3月に閣議決定された第8期北海道総合開発計画のビジョンである「世界水準の価値創造空間」の形成を目指すため、地域づくりに携わる多様な人材の交流、各地域の課題解決や活性化に向けた取組の促進を目的として、北海道価値創造パートナーシップ会議を開催しました。

〔日時〕 平成30年1月20日(土) 10:00～17:00  
〔場所〕 札幌パークホテル  
〔主催〕 北海道価値創造パートナーシップ幹事会  
〔参加人数〕 約150人

《幹事会構成員》 (株)北洋銀行、北海道経済連合会、(一社)北海道商工会議所連合会、(公財)はまなす財団、(一財)北海道開発協会、北海道、札幌市、北海道総合通信局、北海道経済産業局、北海道運輸局  
【事務局】北海道局、北海道開発局

## プログラム

10:00～10:10 主催挨拶・総括ファシリテーター挨拶  
10:10～11:00 基調講演「世界の北海道の実現に向けて」  
11:00～12:00 先行する地域づくり活動の紹介  
「料理のたて軸とよこ軸」  
「観光推進組織によるマネジメントとマーケティング実践事例」  
13:15～17:00 意見交換会

## 基調講演

※ 「世界の北海道」の実現に向け、北海道と世界をつなぐ事例についてご紹介いただきました。



鳥取 義之 氏

((一社)北海道国際流通機構代表)

### 【概要】

- ・ 北海道各地の良質な産品を世界に紹介するため、輸出手続や海外企業とのマッチング等を支援する組織を立ち上げるなど、初心者でも簡単に輸出ができる仕組みを構築。
- ・ みなとオアシスや道の駅等における「海外お土産宅急便」や、海上小口混載コンテナによる輸出をスタートさせるなど、手荷物軽減や道産品の販売支援を通じたインバウンド観光の振興も目指す。

## 主催挨拶・総括ファシリテーター挨拶



幹事会代表

田村 秀夫 氏  
北海道局長



幹事会代表

窪田 毅 氏  
北海道副知事



総括ファシリテーター

田村 亨 氏  
北海商科大学教授

## 先行する地域づくり活動の紹介

※ 道内外で展開されている地域づくり活動をご紹介いただきました。

### 「料理のたて軸とよこ軸」



齋藤 壽 氏  
(美瑛料理塾 塾長)

### 【概要】

- ・ 北海道には素晴らしい食材がふれている。
- ・ 世界に誇れる料理は突然生まれるわけではなく普段の食から始まる。
- ・ 地域の食文化の再認識及びそれらに関するグローバルな観点からの再評価が重要。

### 「観光推進組織によるマネジメントとマーケティング実践事例」 - 「雪国観光圏」を例に



柏木 千春 氏  
(流通科学大学 教授)

### 【概要】

- ・ 3県3市3町1村の広域多機関連携や各々の強みを生かした役割分担、意識的な外部者の視点の受け入れなどがポイント。
- ・ “地域らしさ”を徹底して再整理し、それらを観光商品のストーリー作りに反映させた。関係者間の意識の共有が何よりも重要。

## 意見交換会

※ 北海道が強みを持つ「観光」と「食」をテーマに、道内外の地域づくり活動者、有識者、支援者等による意見交換を行い、課題の解決方策や今後の北海道の地域づくりの在り方等についてご議論いただきました。

### ●意見交換会テーマと出演者

#### テーマ1:「観光資源を活かした地域づくり(飛躍)のために」

- ・ 総括ファシリテーター **田村 亨** 氏 (北海商科大学教授)
- ・ ファシリテーター **千葉 俊輔** 氏 (公益財団法人 はまなす財団専務理事)



**本間 崇文** 氏  
(一般社団法人 黒松内町観光協会事務局長)  
観光地ではない黒松内で資源(ブナの北限)を磨き、潜在的なニーズとのマッチングを目指している。移住者であれ、インバウンドであれ、体験交流へのニーズは根強い。



**大嶋 正行** 氏  
(岩内HUNDREDS座長)  
岩内に存在する100年以上の歴史を持つ文化(禅寺(座禅)や和菓子等)を外国人に紹介したい。思い込みかもしれないが、ニーズはあると思っている。



**中神 美佳** 氏  
(合同会社カミクマワークス代表)  
マーケティングは重要だが、目標とコンセプトを適切に設定することができなければ有効な結論は得られない。思いや仮説を多くの目線で磨いていくことが必要。



**柏木 千春** 氏  
(流通科学大学人間社会学部観光学科教授)  
観光資源の掘り起こし、磨き上げに必要なのは、マーケティング等の技術的な要素と外部の者の視点。地域の資源に対する思いは、観光メニューづくりに必要な要素。取り組むメンバーの熱意・総意が存在することが何よりも重要。



**佐藤 太紀** 氏  
(株式会社エフエムもえる代表取締役社長)  
※ 体調不良により当日欠席  
市民の同志とともに「エフエムもえる」を、また、これを継続的に支えるまちづくり会社を創立。現在は、地域課題を自分ごととして解決する多様な主体で構成されるネットワークを準備中。



**河嶋 峻** 氏  
(合同会社Staylink代表)  
観光は人の出入りが必ず生ずるものであり、出入りする施設に対する地域の信頼は非常に重要。外国人観光客にとっての思いづくりと、地域の人達のやりたいことが同時に実現できれば、双方にとっての幸せが生まれる。

#### 【総括ファシリテーターまとめ】

- ・ 「北海道に宝物がある」「外の目を使って宝物を見つける」「ターゲットを絞って商品化する」「仲間を募る」ことが提案されたと思う。
- ・ 成功も失敗も含んだプロセスこそ大切であり、それが本当の観光地づくりだと思う。

#### テーマ2:「食がつなぐ人のひろがり」

- ・ 総括ファシリテーター **田村 亨** 氏 (北海商科大学教授)
- ・ ファシリテーター **田島 忠篤** 氏 (天使大学 看護栄養学部教授)



**恵 小百合** 氏  
(江戸川大学名誉教授 内閣府公益認定等委員会委員)  
北海道に来る人と北海道にある宝物を結びつけるストーリーテラーが必要。活動の信頼が強まり、多くの人の共有意識にまで高まれば、ブランド化され、活動を支援するための寄附等にもつながる。寄附を財源に活動を行っている公益法人の取組は参考になると思われる。



**草野 竹史** 氏  
(NPO法人 ezorock 代表理事)  
社会の課題を解決するためには世代を超えて取組を継続していくことが重要。乾燥野菜を活用した地域防災コミュニティづくりに取り組んでおり、これらの取組が世代を超えた防災意識の向上につながっている手応えがある。



**平島 美紀江** 氏  
(株式会社のかたべ代表取締役)  
食育は難しいことではなく、昔からお母さん達が子育ての時にやってきたことを継続していくことと同義。食育に必要なことを地域で実現するのであれば、生産者と消費者のつながりを深め、継続していくことが重要。



**齋藤 壽** 氏  
(美瑛料理塾塾長)  
北海道の食材を活かすためには、料理人が農業に近づくことが必要。そういう思いで 美瑛町の「オーベルジュ」を運営。北海道の各地域に、人が集うことができ、食材の良さを実感できるオーベルジュができるとよい。



**津布久 孝子** 氏  
(公益財団法人 味の素食の文化センター専務理事)  
北海道における産・学連携による研究会等において、道産食材と和食の魅力である出汁や、発酵・熟成等との関係に関する勉強が行われている。そうした取組・成果が広がっていくといいと思う。



**坂本 星美** 氏  
(NPO法人 Efy 代表理事)  
北海道の食を意識しつつ、日本人らしい食生活を子供達に伝えていきたい。子供の「トライ」「やってみる」を後押しする場づくり等を通じ、地域における世代を超えたコミュニティの形成を促進したい。

#### 【総括ファシリテーターまとめ】

- ・ 北海道の食が世界とのつながりを強めることができる潜在的な可能性を感じた。
- ・ オンラインの価値づくりには、価値を磨き上げるスピード感と現場主義が大切。北海道内各地域において、それらをどこまでバランス良くやっていけるかが課題。
- ・ 地に足をつけて本物を求め、世界に通用する花を咲かせてほしい。

# 「北海道価値創造パートナーシップ会議」の開催について

## 会場の様子

### ●午前の部(基調講演、先行事例紹介)



会場の様子



基調講演



先行事例紹介(食)



先行事例紹介(観光)

### ●午後の部(意見交換会)



会場の様子



意見交換会の様子(観光)



意見交換会の様子(食)

### 参加者の意見・感想 (要約)

- ・ 官民連携の先進事例である(一社)北海道国際流通機構代表の講演を聞き、地域企業との意識の差を埋めてきた経緯や5年間における成果、今後の課題等“生の”話を聞くことができ非常に有益であった。
- ・ 商流という言葉をはじめて耳にした。基本的に、物、サービスを売る際にはターゲットの抽出と分析に基づき判断が積み重ねられるが、輸出については、関連する多くの課題があると感じた。
- ・ 観光ブランドづくりのコンセプト設定が抜群に面白かった。ストーリーが大切。自分のいる地域も含め、DMOが軌道に乗るか注視したい。
- ・ DMOのように、点在する人、もの、歴史などの資源をつなげて線にしてゆくことが必要であると実感した。
- ・ マーケティングに関する知識や活用方法を知っていることが、地域づくりを行う上で重要であると思った。一つのプロセスに対して、複数の角度からアプローチしてゆく手法は新鮮に感じた。

# 再生可能エネルギーを活用した地域づくりに関する調査の概要

環境・エネルギー

## 調査名

再生可能エネルギーを活用した地域づくりに関する調査 (H28)

## 調査の概要

北海道内各地域に賦存する再生可能エネルギーの有効活用、地域経済の活性化、強靱化等の観点から、再生可能エネルギーを活用した地域分散型エネルギーシステムや地域エネルギー供給事業など、地域の実情や課題を反映したエネルギーの地産地消に関する検討を実施。

### 【アドバイザー会議】

上記検討を実施するにあたり、有識者、モデル地域の自治体で構成する「再生可能エネルギーを活用した地域づくりに関するアドバイザー会議」を設置。

#### (構成員)

- ・北海道大学大学院工学研究院 教授 近久 武美 氏 (座長)
- ・北海道大学大学院情報科学研究科 教授 北 裕幸 氏
- ・北海道大学大学院工学研究院 准教授 石井 一英 氏
- ・稚内市環境水道部環境エネルギー課
- ・鹿追町農業振興課
- ・国土交通省北海道局
- ・国土交通省北海道開発局 (事務局)



## 調査の成果、活用・普及

### 成果

- 稚内市及び鹿追町をモデル地域として、自治体が主導する地域新電力の事業スキームを活用した地域活性化方策（資金の域内循環）やその事業収益を活用した再エネ発電の事業継続支援策について、その事業可能性や効果等を整理した結果、以下の基幹産業の経営基盤強化に資する方策の実施可能性が示された。
- 各モデル地域での余剰再生可能エネルギーを由来とした水素製造・販売事業は、課題である低コスト化について、水素製造過程で発生する酸素、二酸化炭素を活用した収益での補填方策が示された。

#### 【稚内市】

『水産業施設へのエネルギーマネジメントシステム導入』

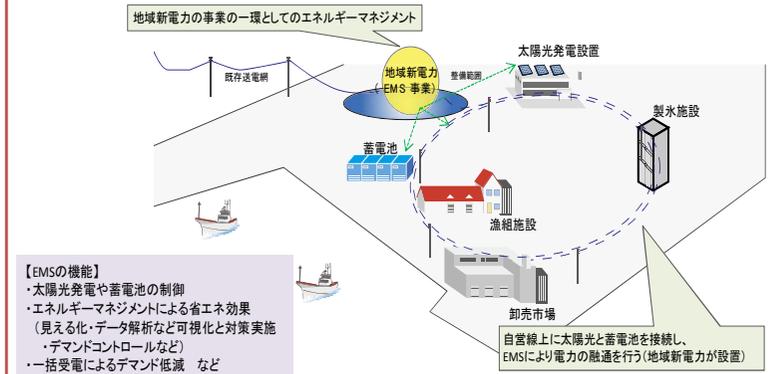
#### 【鹿追町】

『個別バイオガスプラントの余剰再生可能エネルギーを活用した発電事業』

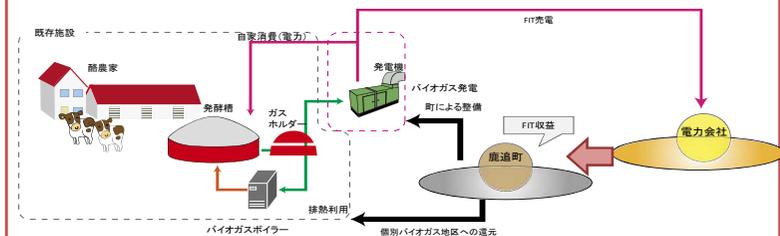
### 活用・普及

- 道内各地域において成果報告を実施。(11回開催、計約200名参加)
- 調査業務報告書の概要版を北海道開発局のウェブサイトに掲載。

#### 稚内市



#### 鹿追町



#### 北海道開発計画調査等説明会開催



	調査名	調査の概要	調査の成果、活用・普及	
<b>食</b>	北海道における「食」の総合拠点づくり検討調査（H28～H29）	<p>北海道外等からの食品企業の誘致を促進し、地域の雇用創出、地域経済の活性化を図る「食」の総合拠点づくりを推進するため、検討会の開催、道外等の食品企業への情報発信並びに意見交換等を実施し、課題の整理を行うとともに今後必要な取組について検討。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【検討会】</b>            当調査の実施に当たり、現状・課題の把握と今後必要な取組の検討を行うため、「食のバリューチェーン構築のための検討会」を設置。</p> <p>（検討会参加機関）            北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会、北海道経済連合会、北海道（農政部、経済部）、農林水産省北海道農政事務所、経済産業省北海道経済産業局、国土交通省北海道開発局</p> </div> 	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>成果</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢道内進出企業との意見交換により、北海道農産物の強み、課題、将来性などを整理し、優位性のある分野を把握。</li> <li>➢道内自治体との意見交換により、道外からの企業誘致における必要な支援や課題について整理。</li> <li>➢加工用の北海道産農畜産物の生産に関する各種情報等を収集・整理し、道外食品企業の誘致促進のための小冊子を作成。</li> <li>➢道外食品企業を対象にアンケート調査を行い、北海道産農産物へのニーズや企業立地の課題等を把握。</li> <li>➢モデル地域3カ所に道外等食品企業を招聘し、現地視察と意見交換会を実施。企業誘致の方向性等について取りまとめ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>活用・普及</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢作成した小冊子（「北海道の農産物食材カタログ」）を道外企業1,000社に送付するとともに、北海道の道外事務所（東京、名古屋、大阪）の協力を得て、企業誘致イベントやプロモーション活動等で活用。</li> <li>➢小冊子作成をプレスリリースするとともに北海道開発局HPに掲載し広く周知。</li> <li>➢北海道への食品企業誘致を促進するための機運情勢を目的に「食の総合拠点づくりシンポジウム」を開催。</li> <li>➢首都圏の食品関連企業に向けて、北海道の食と農の魅力等を発信するセミナーを東京で開催。1部は講師によるセミナー、2部は交流会を開催し、企業と情報交換を行うほか、道内自治体が企業誘致に向けたPRを行った。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>北海道の農畜産物食材カタログ</b> </div>  <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>道外等食品企業の現地視察と意見交換会</b> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>意見交換(富良野地域)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>現地視察(北見地域)</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>食の総合拠点づくりシンポジウム開催</b> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;">  <div style="text-align: right;"> <p>H29.2.3開催 約200名参加</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>北海道食品企業立地セミナー開催</b> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;">  <div style="text-align: right;"> <p>H30.1.23開催 約120名参加 道内15自治体</p> </div> </div>



	調査名	調査の概要	調査の成果、活用・普及	
地 域 構 造	北海道型地域構造の保持・形成に向けたモデル的な圏域における検討調査 (H29~H30)	北海道の生産空間を維持・発展させるため、北海道型の地域構造の保持・形成を推進するため、3つのモデル的な圏域を設定し、当該圏域の課題抽出・施策パッケージの検討及び試行的実施・効果測定及び検証を行い、各地域においても同様の取組を検討するための手法を検討する。	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>成果</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ H29年度は、モデル地域として産業構造や地理的要因などを基に3地域を抽出（名寄、帯広、釧路）し、地域の合意の下、圏域検討会を開催。</li> <li>▶ 圏域検討会では、地域の課題、目指す姿、課題解決に向けて地域で取り組む事項などを、自治体や学識者、地域の民間関係者等と議論し、積極的な提言が得られた。</li> <li>▶ 併せてワーキングチームを圏域検討会の下に発足し、より具体的な議論を実施し、議論の結果をまとめ、施策パッケージ(案)を作成。</li> <li>▶ 今後、ワーキングチームを通じ、施策群の検討及び試行的実施・効果測定及び検証を行う予定。</li> </ul> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>活用・普及</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 圏域検討会や本取組の主旨などについて、新聞で多数報道され、特にモデル地域の地元紙で大きく取り上げられる。</li> <li>▶ 施策パッケージ(案)について、北海道開発局HPに掲載。</li> <li>▶ 施策パッケージ(案)を基に、地域での具体的な取組や試行的取組や本取組を広く展開するためのフォーラムなどを実施予定。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>圏域検討会の開催状況</b> </div>  <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>圏域検討会などの記事掲載</b> </div>  <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <b>施策パッケージ(案)の例</b> </div> 